

誇りを持って働くためのスキンケア&メイク

廣森 知恵子

(株)ハーバー研究所 取締役 美容部ディレクター ビューティプロデューサー

メイクとは実に不思議なもの。鏡を通して変わる自分を見つめ、まわりから「きれいね」「変わったね」と言われることで、充実感と満ち足りた幸福感を得られます。やがて、それは内向きだった気持ちを外向きに変え、その先には、ワクワクする好奇心や何かを求めて楽しむ心が待っている――。これが美容の世界に入り39年を迎えた私が実感したメイクがもたらす特別なパワーです。

ハーバーでは現在、月1～2回のペースで障害のある人を対象に社会参加や自立支援を目的に、「身だしなみと基本のスキンケア&メイク講座」を実施しています。2009年12月からスタートした活動は、現在104回目を迎え受講者の総数は1,331名に上ります。

においに敏感で肌や体にやさしいものを好む障害のある人に、無香料で無添加、どんな肌にもやさしく使える弊社の商品はとても馴染みやすく、そこに「人にやさしく、笑顔で簡単、楽しい美容法」の廣森メソッドを組み込みました。この新しいプログラムに「メイクで人を笑顔にしたい」という思いを込めたのです。

講座では、「おしゃれと身だしなみは違うもの」ということを教えます。身だしなみは社会との接点を身近にする重要な要素ですが、特に男性はそれができていない人が多い。顔や体、髪を洗わない、歯を磨かないことによるにおいや不潔さは、いじめや差別の対象になることもあります。だからこそ顔の洗い方、保湿の仕方、髪のとかし方、鼻毛やひげの剃り残しのチェックの仕方などを丁寧にレクチャーします。女性は、あいさつ、身だしなみ、スキンケア、メイクアップ。自分で整えられるようになることで自信が生まれ自立を促すのと同時に、家族や支援者にもその重要さを理解してもらい、障害のある人が社会参加することの認識を高めるという2つの目的があります。

説明には、わかりやすくするためにイラストを使用し、「2回まわして」とか、「顔の上で10回トントンつけるなど作業の着地点を明確にする工夫をしています。参加者一人一人にふれあいながらレクチャーするスタイルで徐々に緊張をほぐしていきます。家に帰ってからも使い方がわかるように、化粧品に番号や名前をつけて渡します。大切なのは「楽しかった。続けよう！出来て嬉しい！」という前向きな気持ちを持ってもらうことです。

一方で障害のある人、親、支援者にとってメイク講座での経験は、双方の自立のきっかけになります。身だしなみやメイクをすることで表現できる「清潔感」や「親しみ感」は人間関係を円滑にするスパイスのようなもの。また、弊社のスタッフ自身も経験の少ない人にスキンケアやメイクを伝えることを通じて、「メイクによって人々に自信を与える」という価値に気づき、スキルの向上と心の成長する場になっています。

当日は廣森メソッドのご紹介や活動を通じて感じてきたこと、人や会社がどう変化してきたか、すそ野を広げるための取組み「コーチング講座」についてお話したいと思います。